

家 庭

1 教育課程研究協議会の経過（平成21年度～平成24年度）

平成21年度から平成24年度までの手引及び教育課程研究協議会の概要は次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成 21 年 度	1 科目構成 2 改訂の基本方針 3 改訂の内容 (1) 目標 (2) 各科目 (3) 各科目に共通する事項 4 質疑応答 問1 教科目標の意図 問2 教育課程編成上の留意点 問3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教科「生活デザイン」新設について ・ 必修科目「家庭基礎」、「家庭総合」、「生活デザイン」から、生徒による選択で必ず1科目を履修させることについて ・ ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の一層の充実について ・ 各科目の目標、ねらい、内容構成と取扱いについて ・ 研究協議「家庭科における思考力・判断力・表現力等の育成を図る指導内容・指導方法について」
平成 22 年 度	1 全般的事項 問1 小・中学校の学習内容との関連性 問2 共通教科「家庭」の目標等 問3 食に関する指導 問4 消費者教育及び環境教育の改善点 問5 言語活動の充実 2 各科目 問1 科目「生活デザイン」の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校「家庭」、中学校「技術・家庭（家庭分野）」の目標と内容の系統性について ・ 家庭科の特徴を生かした言語活動の充実について ・ 科目「生活デザイン」の特徴について ・ 研究協議「言語活動の充実を図る指導内容・指導方法等について」、「少子高齢社会への対応、食育、消費者教育の推進など社会の変化に対応した課題に関する指導について」
平成 23 年 度	1 教育課程の編成 (1) 基本的な考え方 (2) 特色ある教育課程の編成 2 指導計画の作成と内容の取扱い (1) 指導計画の作成 (2) 内容の取扱い (3) 各科目の指導計画 3 言語活動を充実する学習指導の実践例 (1) 「家庭総合」の実践事例 (2) 「生活デザイン」の実践事例 (3) 「家庭基礎」の実践事例 【トピック】 「消費者教育」の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門教科「家庭」の科目について ・ 「家庭基礎」（2単位）、「家庭総合」（4単位）、「生活デザイン」（4単位）の年間指導計画（例）について ・ 言語活動を取り入れた学習活動及び実践事例について ・ 消費者教育の4つの主要分野と少年期（中学・高校生）における目標について ・ 実践発表及び研究協議「家庭科における言語活動の充実など思考力、判断力、表現力等の育成や学習意欲の向上を図る指導内容・指導方法等について」
平成 24 年 度	1 学習指導の改善・充実 (1) 学習指導の改善・充実の視点 (2) 効果的な学習指導 2 評価方法の改善・充実 3 学習評価の具体例 (1) 観点別学習状況の評価の進め方 (2) 観点別学習状況の評価の実際 (3) 観点別学習状況の評価の総括 【トピック】 「家庭総合」における道德教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な学習指導を推進するための留意点について ・ 観点別学習状況の評価の在り方と、評価方法や評価の総括について ・ 家庭総合における道德教育の適切な指導について ・ 実践発表「言語活動の充実について」 ・ 研究協議「学習評価について」、「消費者教育の指導上の課題について」

2 指導と評価を円滑に行うための年間指導計画の作成

(1) 年間指導計画作成上の主な留意点

「家庭基礎」、「家庭総合」及び「生活デザイン」の各科目に配当する総授業時数のうち、原則10分の5以上を実験・実習に配当すること。その際、実験・実習には、調査

・研究、観察・見学、就業体験、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流活動などの学習活動が含まれること。

(2) 「家庭基礎」における年間指導計画及び単元の指導計画例

ア 年間指導計画の例

学期	月	単元 (題材)	指導項目	指導のねらい	時数	評価の観点・評価規準に盛り込むべき事項/◇評価方法
	4	オリエンテーション		・「家庭基礎」の目標、内容を理解させる。	1	【関心・意欲・態度】 家庭基礎の学習の目的や目標を理解し、学習への意欲をもつ。
	5	(1) 一人の生と家族・家庭及び福祉	ア 青年期の自立と家族・家庭 (イ) 青年期の自立と生活と意思決定	・生涯発達の視点で青年期の課題を認識させ、男女が協力して家庭を築くことの重要性を考えさせる。	7	【関心・意欲・態度】 家族や家庭生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、各ライフステージの特徴と課題、家族や家庭生活の在り方などに関心をもち、共に支え合って生活するという視点から主体的に学習活動に取り組んでいる。 ◇観察法 【思考・判断・表現】 生涯発達の視点から、各ライフステージの課題や家族や家庭生活の在り方についての課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。 ◇家族ドラマ 【技能】 事例研究などを通して、家族や家庭生活の在り方などについて検討するための技術を身に付けている。 ◇ワークシート 【知識・理解】 生涯発達の視点から、各ライフステージの特徴と課題、家族や家庭生活の在り方などについて理解し、人の一生を自分の問題として捉えるために必要な知識を身に付けている。 ◇定期考査問題

イ 単元（題材）の指導計画「青年期の自立と家族・家庭」について

ア 「青年期の自立と家族・家庭」の指導と評価の計画（例）（8時間）

①生活と意思決定 1時間（第1次）
②家族ドラマの作成及び発表 6時間（第2次）
③アサーショントレーニング 1時間（第3次）

評価規準は、「おおむね満足できる」状況と判断されるもの（B）を示している。

	【ねらい】/◆学習活動	評価の観点				・評価規準/◇評価方法	生徒Aの評価
		関	思	技	知		
第1次	<p>【ねらい】 生涯を見通して、生活課題に対応した意思決定をし、責任をもって行動することが重要であることを理解させる。</p> <p>◆題材の流れと目的を理解する。 ◆家族に関する内容について教科書を読み、歴史的、文化的、社会制度としての家族について知り、関心をもつ。 ◆「人生の選択」について、自分の意思決定内容をグループ員に説明する。</p>			●		<p>・歴史的、文化的、社会的制度としての家族について理解している。 ◇観察</p> <p>・意思決定に影響を与える要因について考えている。 ◇ワークシート1「人生の選択」(※1)</p>	A B
第2次	<p>【ねらい】 家族ドラマの作成を通して、固定的な性別役割分業意識を見直し、相互の尊重と信頼関係のもとで夫婦関係を築き、共に協力して家庭をつくることの意義や重要性を認識させる。</p> <p>◆グループで、各個人の「人生の選択」について交流する。 ◆「人生の選択」の項目を題材に、家族の葛藤や心情を描く「家族ドラマ」をグループで考え台本を練り上げる。（発表時間：3分間以上） ◆配役を決定し、発表の練習をしながら、家族の課題について、改善・修正を加える。</p> <p>◆家族ドラマを発表し、全員で審査する。（脚本賞（金・銀）、演技賞（金・銀））</p>		●	●		<p>・家族や家庭の課題を検討することができる。 ◇観察</p> <p>・男女が協力して家庭を築くという視点から家族ドラマの作成に主体的に関わっている。 ◇観察、家族ドラマのシナリオ</p> <p>・固定的な性別役割分業意識を見直し、相互の信頼関係のもとで夫婦関係を築くことについて具体的な事例から考えている。 ◇家族ドラマのシナリオ(※2)</p> <p>・家族が社会制度として、存在することの意味、必要性について考え、審査している。 ◇ワークシート2「審査用紙」(※3)</p>	A A B A
	◆定期考査			●		・歴史的、文化的、社会的制度としての家族について理解を深めている。	

グループ学習から個々の生徒を評価するために、グループ学習の前に、自分の考えや意見を書く場面を設定し、ワークシート（※1）に記入させることで、個々の生徒の取組状況を把握する。また、作業中に机間指導を行い、グループ活動への取組の様子（リーダーシップの発揮・活動への参加の度合い、役割・貢献度等）を観察し、評価する。

ウ ワークシート2「審査用紙」（※3）における評価の具体について

評価（B）「家族が社会制度として、存在することの意味、必要性について考え、審査している。」を踏まえた事例を以下に示す。ここでは「1 感想など」、「2 今回の家族ドラマ作成で気付いたこと」、「3 他の班の家族ドラマなどから考えたこと」を総合的に評価する。



ワークシート2「審査用紙」（※3） 【生徒Aの記入例】

1 家族ドラマ審査／考察用紙			
班	タイトル	感想など	賞候補
1	6	家族のカ 息子、娘たちの父さんへの優しさが感じられるストーリーでした。	
2	1	親心と干し芋 母さん、本人は登場してこないけれど、配達員の言葉や干し芋から、親心や温かさを感じました。	
3	8	Father ～あの日の頃に 戻れたら～ 主人公の演技がうまかった。父さんの熱意を息子も同じようにもっていると思いました。	脚本賞
4	2	Never give up!	
~~~~~			
8	9	Work ナレーターが聞き取りやすく、上手でした。悩み事は、1度経験したことのある人に相談すべきだと思った。	
9	4	決意と成長 演技がよかった。子どもたちの親を思いやる姿が素晴らしい。	演技賞
10	5	Family 演技が上手でした。おじいちゃんが出てくる珍しいケースだったので面白かった。	

### 2 今回の家族ドラマ作成で気付いたこと — 評価 **B**

やりがいのある授業でした。自分たちで脚本、演出、設定などを考えるのは大変でしたが、成功した時の達成感が大きかったです。Gさんが夜中の2時まで脚本を書いてくれました。放課後に残ってみんなで演出のアイデアを出したり、リハーサルをするのは楽しかったです。協力的でいい班だと思いました。脚本がドラマのように書かれてはいなかったが、S君とT君がアドリブを入れ雰囲気を盛り上げてくれたので感謝しています。

### 3 他の班の家族ドラマなどから家族や家庭について考えたこと 【思考・判断・表現】

— 評価 **A** —  
個性的な内容のドラマが多く、どれもよかったです。演技が上手な人がいる班は、特に印象に残りました。家族の絆、親思いの子ども、子ども思いの親など様々な心境が表現されていて感心しました。私が1番心に残ったのは、親を想う子どもたちのドラマです。「働きたい」と言う母さんのために、子どもたちが「母さんのために家事を手伝う優しい考え方を私も見習おうと思いました。」

#### 【「十分満足できる」状況(A)と判断される記入例】

・家族が社会制度として存在している意味、必要性について自分の家庭を振り返り考え、審査している。

どの班をみても、ほとんどが家族みんなで話し合う場面があって、それは大事だと思った。最近は、夫だけじゃなくて妻も働かなければならない時代なので、夫が家事や育児を手伝うことや子どもが家のことを手伝うのが必要だと思いました。

※女性の職業労働の変化や家事労働について考えている。

家族ドラマを作ってみて、ドラマではたくさん大変なことがあったので、普通に暮らせることは、とても幸せなことだと改めて思いました。ドラマのような大きなことが実際にはないけれど、私もそのようなことがあったら乗り越えられるようになればいいなと思った。

※自分の家庭を振り返り、家族の大切さを認識している。

家族って大切だと思った。事故にあったり病気をしたときに大切に気付くのは、もししたら遅いのかも知れないから、日頃から感謝の気持ちを忘れずに大切にしていきたいと思います。

※自分の家庭を振り返り、家族への感謝の気持ちをもっている。

#### 【「おおむね満足できる」状況(B)と判断される記入例】

・家族が社会制度として存在することの意味、必要性について考え、審査している。

自分たちの班より内容が濃く、とても長いドラマを作っていて、もう少し自分たちの班のドラマを長くすればよかった。考えさせられるドラマがあったり、面白いドラマがあったり、自分たちの班にないことがたくさんあり、見ていて楽しかった。

※何について考えたのか、具体的に記述する必要がある。

みんな内容がリアルで面白く、役に入り込む人ばかりだったし、笑えるところもあってよかった。他のクラスのドラマも見てみたい。大人になった時にこんな事があるのかと思った。

※大人になった時ではなく、現在の自分の家庭への振り返りが必要である。

9班の全てがどこかで笑いをとっていたのがすごかった。自分たちの班の話し合いにも出てこなかった家庭問題があって、とても見逃えがあった。楽しい授業だった。

※家庭問題について、具体的な内容を記述する必要がある。

### 3 観点別学習状況の観点ごとの総括

観点別学習状況については、個々の評価規準に照らして学習の実現状況を評価し、得られた評価結果を基に、単元（題材）全体の実現状況をまとめ、さらに学期や学年といった単位で学習の実現状況をまとめる。

#### (1) 観点別学習状況の評価の観点ごとの評価の総括

ア 題材又は単元ごとの観点別評価及びその総括について

各題材や単元で身に付ける資質や能力を明確にし、題材又は単元ごとの評価計画を作成して具体的な評価規準を設定する。その際、題材又は単元によって重視する観点や評価規準があれば、評価計画作成の段階から評価回数を多くしたり、重み付けをしたりするとともに、観点の趣旨にふさわしい評価方法を適切に選択し組み合わせるなど、多元的に評価することが必要である。

	関意態	思判表	技能	知理	単元の総括
(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉	A	B	A	A	A (3)
(2) 生活の自立及び消費と環境	ア 食事と健康	A	B	B	B (2)
	イ 被服管理と着装	A	B	A	B (2)
	ウ 住居と住環境	A	C	B	B (2)
	エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画	A	B	A	A (3)
	オ ライフスタイルと環境	A	A	A	A (3)
	カ 生涯の生活設計	A	B	B	B (2)
(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	A	B	B	A	A (3)
総括	3 + 2 + 2 + 2 + 3 + 3 + 2 + 3 = 20    20 ÷ 8 = 2.5				評定 4

【評定5 3 ≥ 平均値 ≥ 2.7】 【評定4 2.6 ≥ 平均値 ≥ 2.3】 【評定3 2.2 ≥ 平均値 ≥ 1.7】  
 【評定2 1.6 ≥ 平均値 ≥ 1.1】 【評定1 1】

イ 学期及び学年末の各科目の観点別学習状況の評価

学期及び学年末における観点ごとの評価の総括は、題材又は単元ごとの観点別学習状況の評価を行い、観点ごとに総括して、学期ごと、学年ごとの観点別学習状況の評価とすることもできる。その際、補充指導の効果を生かして修正するなど生徒の進歩の状況について配慮する必要がある。この他にも、観点別評価の総括について様々な考え方があり、生徒の実態等を踏まえ、各学校において工夫することが大切である。

#### (2) 観点別学習状況の評定への総括

観点別学習状況の評価が評定の基本的な要素となる。

学年末に評定へ総括する場合には、学期末に観点ごとに総括した評価の結果を基に総括することが考えられる。

	関意態	思判表	技能	知理	
(1) 人の一生と家族・家庭	A	A	A	A	A (3)
(2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉	A	B	B	B	B (2)
(3) 生活における経済の計画と消費	A	B	A	B	B (2)
(4) 生活の科学と環境	ア 食生活の科学と文化	A	B	B	B (2)
	イ 衣生活の科学と文化	A	B	B	B (2)
	ウ 住生活の科学と文化	A	B	B	B (2)
	エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立	A	B	B	B (2)
(5) 生涯の生活設計	A	B	A	B	B (2)
(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	A	A	A	A	A (3)
総括	A	B	B	B	合計 (20)
ABBB 3 + 2 + 2 + 2 = 9    評定 4					A : 25以上 B : 24~15 C : 14以下
※評定5は12~11、評定4は10~9、評定3は8、評定2は7~5、評定1は4					

# Topic

## ◆ 家庭科における人権教育の推進

～男女共同参画社会の推進～「男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する」

共通教科家庭の目標「男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」とは、男女共同参画社会の推進を踏まえて、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術の習得を通して、共に支え合う社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身に付け、男女が協力して家庭を築いていくことを認識させ、家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを示している。

### ○ 「家庭総合」における人権教育（男女共同参画社会の推進）の指導例

(1) 人の一生と家族・家庭 (イ) 青年期の課題 (4/7時間)				
本時の目標	男女共同参画基本法について理解し、男女が相互に協力して家庭を築くための課題とその解決策を考えることができる。			
指導の工夫	自立や男女平等と協力などについて、グループ内やグループの発表により全体で意見を共有し、男女共同参画社会推進の課題について互いに考えを深めさせる。			
	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準等
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>性別役割分業意識について「男らしさ、女らしさ」から連想する語句をワークシートに記入させ、発表させる。</li> <li>ジェンダーチェックから自己を把握させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「男らしさ、女らしさ」から連想する語句をそれぞれあげる。</li> <li>ジェンダーチェックで自己を振り返る。(個人)</li> </ul>	○北海道環境生活部HP「ジェンダーチェック 学校編、家庭編」	<b>【知識・理解】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画基本法の内容や制定の背景について理解している。</li> </ul> (評価方法) ワークシート
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画基本法が制定された背景を考え、男女の社会的責任について理解させる。</li> <li>日本の女性のM字型就労の要因についてグループで考え、発表させる。</li> <li>職業生活と家庭生活の両立には、社会的支援が必要であることを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法が制定された背景を考え、法の基本理念を理解する。</li> <li>「男女・年齢階級別労働力率の推移」から、M字型の要因について、グループで意見をまとめ、発表する。</li> <li>出産・子育てと職業生活の両立に必要な社会的支援を考える。</li> </ul>	○資料「日本の労働現場の実態」を使用する。  ・少子高齢化との関連について説明する。	<b>【思考・判断・表現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>男女が相互に協力して家庭を築くことについて具体的に考えたり、まとめたり、発表したりしている。</li> </ul> (評価方法) グループ発表 ワークシート

## ◆ 家庭科における消費者教育の推進

平成24年12月に策定された「消費者教育の推進に関する法律」では、消費者教育を総合的かつ一体的に推進するため、消費者教育の基本理念や、国及び地方公共団体等の責務などについて規定された。

本法では、「幼児・児童・生徒の発達の段階に応じた、学校の授業その他の教育活動における消費者教育の機会の確保」、「教育職員に対する消費者教育に関する研修の充実」、「学校における実践的な消費者教育推進のための人材の活用」など、学校においても消費者教育を推進することが示された。

### ○ 消費者教育フェスタの開催（平成22年度～）

文部科学省の消費者教育に関する事業の成果を広く還元するとともに、消費者教育を実践する多様な主体と連携・協働することにより、消費者教育の更なる推進を図ることを目的に開催。フェスタでは、講演、パネルディスカッションのほか、消費者教育の授業公開や各種企業・団体によるワークショップ等を実施。

### ○ 北海道江別高等学校（家庭科・公民科）における取組

「消費者教育推進のための調査研究事業」（文科省指定研究事業、平成24、25年度）の指定を受け、「教科横断的なカリキュラムの開発」、「消費者保護に関する教材の作成」等の実践研究を実施。

本校の研究内容については、学校HPに掲載。

江別高等学校HP URL <http://www.eko.ed.jp/index.html>